



R3年度小学校英語授業づくりプロジェクト(第1回目研修)

私の授業実践 ⑤ ～多良木町立多良木小学校 岡田 慧 先生～

6年 単元名「Let's go to Italy?」

○単元を通じた学習課題

お互いのことをよく知るために、自分の行ってみたい国の案内カードを作り、おすすめの国を友達やオンラインティーチャー(OT)に紹介し合おう。

○本時の目標(3/9)

行ってみたい国やその国のおすすめのことをたずねたり答えたりすることができる。

言語活動を通して発話への自信を高める

多良木小学校では、海外の英会話講師(オンラインティーチャー 以下 OT)と1対1の英会話を行う取組を、年間12回、6年生の授業に位置付けて実践されています。今回の単元のゴールは、このOTに向けて自分のおすすめの国を紹介したり、フィリピンのおすすめを聞いたりすることでした。子供たちは、OTとの英会話を楽しみにしている反面、緊張感も大きいとのこと。そのため、岡田先生は子供たちの発話への自信を高められるよう、普段からたくさん聞いてたくさん話す時間を確保することを心掛けておられます。

本時の授業でも、子供たちがたくさん聞いたり話したりする活動が設定されていましたが、注目したいのは、それらの活動が単なる練習的な活動ではなく、自分の本当のことを伝え合う言語活動が主であったということです。45分間の授業では、「自分の行きたい国とその理由」や「おすすめの国のよさ」などをテーマに、子供たちは複数の友達と自分の考えを伝え合いながら、徐々に必要な表現を聞いたり話したりすることに慣れていく様子が分かりました。

外国語の「知識及び技能」は、思考・判断を伴う言語活動を繰り返すことによって身に付き、それらの活動を繰り返すことで自信がつき、主体的に学習に取り組む態度につながっていきます。

岡田先生の授業から、実際の授業においては、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を一体的に指導していくことが重要であることに改めて気付かされました。



〈デモンストレーションの様子〉

自分の考えや気持ちを既習の表現を活用して伝える

今回の授業における子供同士の言語活動では、行ってみたい国のおすすめについて自分の本当の気持ちを伝えようと取り組む姿が見られました。そのため、活動途中の中間指導の場面では、「(モンゴルに行きたい理由で、)ゲルに住めるからって言いたい」「(エジプトに行きたい理由で、)ラクダに乗れるからって言いたい」など、言いたかったけど言えなかった表現について児童から次々と質問が出ていました。岡田先生は、すぐに答えを出さず、一旦子供たちと一緒に考える時間を持たれます。先生のヒントを手掛かりに、「『住む』ってなんて言うんだろう?」「『ラクダ』って何だったっけ?」と、一生懸命思考する子供たちの様子が見られました。そして、授業の初めに歌ったLet's Singの歌詞を思い出し、「(ラクダは)camel?」などとつぶやいたり、課題の解決に向けて取り組む様子が見られました。子供たちに十分思考させた後、ALTのジョーダン先生から「stay in a ger」「ride a camel」と正しい表現を教えてくださいました。

子供たちが表現につまずいたとき、ALTから正しい表現を教えてもらうことは簡単ですが、簡単に教えてもらった表現は意外とすぐに忘れてしまうものです。また、なんとか自分の知っている表現で伝えようと試行錯誤する場面は、まさに英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方が働いている状況です。

先生方には、言語活動において自分の伝えたいことを試行錯誤しながら伝える過程を大切にされた授業づくりをぜひ、お願いします。